



本校は日常のESDを通じて、ユネスコスクールへの加盟を目指しています。



ユネスコスクールの理念

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」
(ユネスコ憲章前文)

1953(昭和28)年発足。加盟校同士が交流。児童・生徒等間、教師間で情報や体験を共有。地球規模の諸問題に若者が対処できるよう新しい教育内容や手法の開発、発展を目指す。

【学びの4本柱】

- ① 知ることを学ぶ
- ② 為すことを学ぶ
- ③ 人間として生きることを学ぶ
- ④ 共に生きることを学ぶ

【目的と活動テーマ】

- ① ユネスコ憲章・国連憲章の理念の推進
- ② 教育・文化・科学・コミュニケーション分野の平和のための国際協力
- ③ 斬新で創造的な教育手法を開拓し変化を促す
- ④ 同じような志を持つ世界の学校と知見を共有しパートナーシップを育む
- ⑤ 国際社会の構成員という意識に立ち、SDGsの達成に貢献すること

これまでの取組み

○令和3年度

- ・「さくら国際支援隊」が発足。
各学部の教科・合わせた指導の中で行われてきた「地域・国際社会」への「貢献・活用・協働・発信」の活動を「地域・国際貢献」としてまとめ、その活動グループを「さくら国際支援隊」と命名。
- ・生徒によるテーマソング「ハレルヤ～君の笑顔に出会えますように」を制作。

○令和4年度

- ・年間指導計画上に「SDGs」を位置づけ、様々な活動を展開。
- ・「さくら国際支援隊」の活動の充実。(ユニセフ、ダルニー募金、エコキャップの回収、書き損じはがきの回収、インクカートリッジの回収、牛乳パックの回収・再生等の活動など)
- ・全児童・生徒及び保護者による作品「SDGsの樹」を制作。
- ・教員向けSDGs研修【講師：東京大学教授 北村友人氏】の実施。

○令和5年度

- ・「さくら国際支援隊」の活動を「総合的な学習の時間」及び「総合的な探究の時間」に位置づけ、「SDGs」を児童・生徒が主体的に捉え、活動できるよう学習構成の改良(教育課程の改善)を図りました。
- ・教員向けSDGs研修【講師：多摩市立連光寺小学校(ESD推進校)校長 関口寿也氏】を実施。
- ・地域の連光寺小学校、北諏訪小学校、聖ヶ丘小学校、聖ヶ丘中学校、永山高等学校と連携し、令和4年度制作「SDGsの樹」を「ESDの森」へ、バージョンアップ。
- ・ユネスコスクール加盟を目指して、参加意思を表明(申請)。

ユネスコスクールへの道のり

- ①本校のこれまでの活動実績を再確認
・地域の連携施設などの環境整備及び美化活動、高齢者支援(配達業務など)、エコ・リサイクル活動、国際募金活動、作業学習製品の販売活動など
- ②ユネスコスクールへの加盟申請
⇒令和6年1月23日に申請し、「ユネスコスクールチャレンジ校」として認定されました。
- ③ユネスコスクールチャレンジ期間
・令和6年1月23日よりチャレンジ期間が始まりました。
・ESDにかかる学習活動を継続、発展させていきます。
・地域へのより良い発信にも積極的に努めていきます。
※創価大学がASPUUnivNet支援大学として本校をサポートしていただきます。
- ④ユネスコスクール加盟申請国内審査
・国内審査に向けて、本校のこれまでの様々ESDにかかる取組みをまとめた報告書を作成し、提出します。
※国内審査を通過すると、ユネスコスクール・キャンディデート校として承認されます。
- ⑤ユネスコスクール・キャンディデート校(最終審査)
・ユネスコ本部で認定されると「ユネスコスクール」として登録されます。

○ ESD とは

ESDはEducation for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

今、世界には気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等人類の開発活動に起因する様々な問題があります。

ESDとは、これらの現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動です。つまり、ESDは持続可能な社会の創り手を育む教育です。



※文部科学省より

○ ESD の意義

- (1) 障害があっても「自分ができること」で障害のない人と同様に「持続可能な社会づくり」に参加できる。(自尊感情、自己肯定感、自己有用感、第三者や社会からの承認)
- (2) 具体的な活動(地域校との交流活動も含め)を通して、同年代の児童・生徒、地域住民や企業等とのつながりを深め、お互いを尊重しあう「パートナーシップ」の形成することができる。

○ 本校における ESD の実践の意義

- (1) 現在、各学部で行っている「4本のキーワード(貢献・活用・協働・発信)の延長上に位置づけることができる。
- (2) 市内小・中学校及び都立高等学校との学校間交流や副籍交流においてもよい題材(教材)となる。
(多摩市立全小学校・中学校は既にユネスコスクール加盟校)
- (3) それぞれの教育部門・学部の児童・生徒の実情に応じた内容を工夫して実施できる。